常陸太田市

内水ハザードマップ

令和８年３月

② 幸久・佐竹地区

この「内水ハザードマップ」は、住民の皆様がお住まいの地域で、短時間に大雨が降った場合に内水浸水が想定される範囲やその深さを示したものです。

内水浸水とは、下水道や側溝などの排水能力を超えた場合に、雨水が道路や宅地などに溜まり発生する浸水のことをいいます。

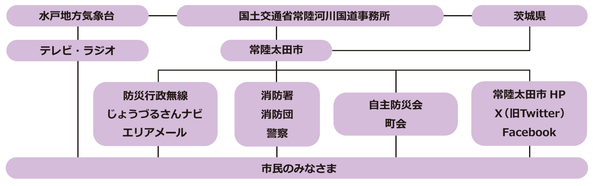
このマップを活用して自宅付近の状況や避難所を確認して、安全に避難できるように備えましょう。

このマップは、想定される最大規模の降雨に伴う内水浸水の区域を示したもので、洪水（河川の破堤または越水）による氾濫等を考慮したものでないため、指定されていない地域でも浸水が発生したりする場合があります。

お問合わせ先：「常陸太田市　防災対策課」
〒313-8611 茨城県常陸太田市金井町 3690
TEL:0294-72-3111（代表）FAX:0294-72-3002
URL:https://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/　Email:info@city.hitachiota.ibaraki.jp

洪水予報等、避難指示等の伝達方法

気象情報・洪水予報・避難に関する情報などは、次のような経路で市民のみなさまに伝達されます。



○行政機関・ライフライン管理機関の連絡先

機関名	所在地	電話番号	機関名	電話番号
常陸太田市役所	金井町 3690	72-3111	常陸太田市上下水道部	72-3111
太田警察署	馬場町 1223	73-0110	東京電力	0120-995-007
常陸太田市消防本部	山下町 1693	73-0119	ＮＴＴ東日本	113 または 0120-444-113

家族や親族の連絡先を記入しておきましょう

お名前	電話番号	学校・職場など	お名前	電話番号	学校・職場など

火事・救急 **119番**　警察 **110番**　災害用伝言ダイヤル **171番**

避難に関する情報

警戒レベル	住民がとるべき避難行動	避難情報（常陸太田市）	気象情報(気象庁)［警戒レベル相当情報］
5	**命の危険　直ちに安全確保！** ・災害が発生又は切迫した状況であり、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保	大雨特別警報 等
	警戒レベル4までに必ず避難！		
4	**危険な場所から全員避難！** ・直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ・避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する。（2階以上へ「垂直避難」）	避難指示	土砂災害警戒情報 等
3	**危険な場所から高齢者等は避難！** ・避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は、避難場所へ避難を開始する。 ・その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始。危険だと思ったら早めに避難する。	高齢者等避難	大雨警報（土砂災害）洪水警報 等
2	・避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ・避難情報の把握手段を確認する。	－	大雨・洪水注意報 等
1	・災害への心構えを高める。 ・防災気象情報等の最新情報に注意する。	－	早期注意情報

大 ↑ 危険度 ↓ 小

特別警報・警報・注意報等

警報等の種類		説　明	
大雨	特別警報	大雨により重大な災害が起こる恐れが著しく大きいと予想される場合に発表する予報。	警戒レベル5
	警　報	大雨により重大な災害が起こる恐れがあると予想される場合に発表する予報。	警戒レベル3
	注 意 報	大雨により災害が起こる恐れがあると予想される場合に発表する予報。	警戒レベル2
土砂災害警戒情報		大雨により土砂災害の危険度が高まった市町村を特定し、茨城県と水戸気象台が共同して発表する情報で。 ●土砂災害警戒区域（イエローゾーン） 土砂災害が発生した場合に、住民の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域 ●土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン） 土砂災害が発生した場合に、建築物の損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域	警戒レベル4
記録的短時間大雨情報		大雨警報が発表されているときに、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測、または解析されたことを発表する情報。	

避難時の心得

TV・ラジオ・インターネットなどで最新の気象情報、避難情報などの災害情報を入手しながら、雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら早めに避難しましょう。

防災行政無線などからの避難の呼びかけに注意しましょう。

非常時持ち出し品と一緒にハザードマップを持って避難しましょう。

裏面の危険箇所や浸水箇所を確認し、安全なルートで避難しましょう。

避難する前に、電気・ガスなどの火元を止め、避難所をもう一度確認しましょう。

隣近所に声を掛け合い、なるべく集団で避難しましょう。また、高齢者、子供、病人、障がいのある人等の避難に協力しましょう。

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになるので、できる限り徒歩で避難しましょう。

避難経路はできるだけ高い道路を選び、浸水箇所があった場合は、溝や水路に注意しながら避難しましょう。

避難が遅れたときは近くの丈夫な建物の浸水が及ばない階に逃げましょう（垂直避難）。

指定緊急避難場所・避難所一覧

幸久幼稚園	上河合町 1287-2	機初公民館	幡町 1311
旧西小沢小学校	内田町 1096	西小沢公民館	内田町 3569-1
旧幸久小学校	上河合町 2	幸久公民館	上河合町 1334-2
峰山小学校	谷河原町 298	佐竹公民館	稲木町 671
峰山中学校	磯部町 1620	金砂郷小学校	大里町 4401
太田西山高等学校	新宿町 210	旧郡戸小学校	中野町 2
総合福祉会館	稲木町 33	金砂郷中学校	大里町 3577
山吹運動公園	新宿町 1	大里ふれあい広場ふれあいセンター	大里町 4401
太田市民ふれあいセンター	木崎一町 1981-3	工芸交流センター楓	小島町 1263-1

：指定緊急避難場所　：被災するおそれのある指定緊急避難場所　：指定避難所　：被災するおそれのある指定避難所

インターネット等での情報収集

情報内容	提供機関	アドレス・電話番号		備考
防災情報	茨城県防災・危機管理部	パソコン	https://www.pref.ibaraki.jp/kurasu/bosai/index.html	茨城県の防災情報
災害情報	常陸太田市	パソコン	https://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/page/dir002625.html	常陸太田市の防災情報
			https://twitter.com/hitachiotacity	常陸太田市のＸ（旧Twitter）
			https://www.facebook.com/hitachiota.city/	常陸太田市のFacebook
		スマートフォン	アイフォンをご利用の方　アンドロイドをご利用の方	常陸太田市行政情報アプリ じょうづるさんナビ
雨量・河川の情報	国土交通省	パソコン	https://www.river.go.jp/	川の防災情報
			https://www.ktr.mlit.go.jp/hitachi/	常陸河川国道事務所
			https://disaportal.gsi.go.jp/	ハザードマップポータルサイト
		テレホンサービス	029-240-4102	那珂川・久慈川のリアルタイム雨量・水位情報
	茨城県土木部	パソコン	http://www.kasen.pref.ibaraki.jp/	雨量河川水位情報
土砂災害警戒情報	茨城県土木部	パソコン	https://www.dosya.kasen.pref.ibaraki.jp/dosya/	お住まいの場所について、土砂災害発生のおそれのある地区かどうか調べられます。
気象情報	気象庁	パソコン	https://www.jma.go.jp/jma/index.html	全国の気象情報を確認出来ます。
防災行政無線の放送情報	常陸太田市	パソコン	https://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/page/page001940.html	防災行政無線放送内容の確認が出来ます。
		テレホンサービス	0294-72-8989	放送を聞くことができなかった場合、過去の放送内容を聞くことが出来ます。
			0120-189-891（フリーダイヤル）	

災害時に家族と連絡がとれない場合は…

災害時の声の伝言板

災害伝言用ダイヤル

災害時には電話が混雑し、家族と連絡が取れないことが多くあります。
そんなときは「171」をダイヤルし、利用案内に従って伝言の録音・再生を行ってください。利用の開始や録音件数（最大 10 件）など、利用条件については NTT が決定し、テレビ・ラジオなどを通じてお知らせします。
※一般電話・公衆電話・携帯電話・ＰＨＳから利用できます。

録音方法　１７１ → １ → 案内放送が流れます　伝言を録音したい方の ０２９４ ＋ 自宅電話番号 または 携帯電話番号

再生方法　１７１ → ２ → 案内放送が流れます　伝言を再生したい方の ０２９４ ＋ 自宅電話番号 または 携帯電話番号

体験利用日
毎月１日、15 日　０時～ 24 時
正月三が日（１月１日０時～１月３日 24 時）
防災週間（8 月 30 日９時～９月５日 17 時）
防災とボランティア週間（１月 15 日９時～１月 21 日 17 時）

災害伝言板（web171 等）

大規模災害等が発生したときに、携帯・スマホ・パソコン等を利用して伝言の登録・確認ができる伝言板です。

・NTT 東日本・・・・・https://www.web171.jp/
・NTTdocomo・・・・http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
・au（KDDI）・・・・・http://dengon.ezweb.ne.jp/
・SoftBank ・・・・・http://dengon.softbank.ne.jp/

登録方法
それぞれのアクセス先のメニューに従って入力を行ってください。
① メニューに表示される「災害伝言板」を選択
② 「登録」を選択
③ 「無事です」等の状態を選択し、100 文字以内のコメントを入力
④ 「登録」を押して完了

確認方法
それぞれのアクセス先のメニューに従って確認を行ってください。
① メニューに表示される「災害伝言板」を選択
② 「確認」を選択
③ 安否を確認したい人の携帯電話番号を入力
④ 「検索」を押して伝言を確認

家庭でやっておきましょう

浸水対策

側溝や雨水ますを点検しよう

●側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。
●雨水ますの吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。普段から清掃しておきましょう。
●雨水ますやL型側溝の上に車乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。

浸水に備えよう

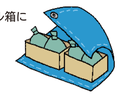
●家にあるもので浸水を防ぎましょう。土のうやプランター、家庭にあるごみ袋などを利用した水のうなどを使って浸水を防ぐことができます。
●大雨の際には、洗濯機、トイレ、風呂場の排水口など思わぬところから下水が逆流することがあります。排水口を水のうなどでふさぎましょう。

家庭でできる浸水防止対策の一例

ごみ袋（45リットル）を二重にし、中に半分くらい水を入れ、水のうを作ります。

水のうと長めの板などを組み合わせて、浸水を防ぎます。

水のうは段ボール箱に詰めることで、強度が増します。



プランターをならべ、レジャーシートで包み浸水を防ぎます。

ハザードマップで自宅と避難場所を確認しよう

●自宅付近が浸水したときにどのくらいの水深になるかを確認しましょう。
●自宅から避難場所までの複数の道順や方向を、ハザードマップに書き込みましょう。

避難時の持ち出し品を確認しよう

●避難時の持ち出し品は日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
●持ち出し品はできるだけ少なくし（ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品、マスクなど）、リュックサックなど、両手があくものに収まる程度にしましょう。
●避難場所には食料、水、タオルなど、必要なものを持参しましょう。

リュックサックが便利！

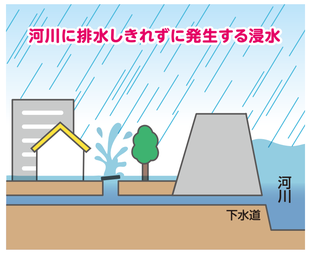
●持ち物（例）

☐ 飲料水　☐ 食料　☐ 携帯電話　☐ ラジオ　☐ 懐中電灯
☐ マスク　☐ アルコール消毒薬　☐ 体温計　☐ ヘルメット　☐ ティッシュ
☐ ウェットティッシュ　☐ タオル　☐ 着替え・スリッパ等　☐ 軍手　☐ 歯ブラシ、歯磨き粉
☐ 健康保険証　☐ お薬手帳　☐ 服用中の薬　☐ 現金　☐ 雨具
☐ 生理用品　☐ 粉ミルク、哺乳瓶、離乳食　☐ 紙おむつ、おしり拭き
☐ お菓子　☐ 子どものおもちゃ
☐ その他（　　）

内水と外水（洪水）の違い

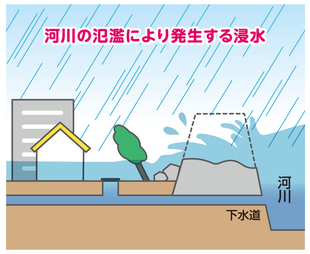
内水氾濫

内水氾濫とは、雨の量が下水道などの排水能力を超えたときや、河川などの排水先の水位が上がっている時に雨水を排水できなくなり、マンホールや水路から水があふれて市街地や田畑が浸水することをいいます。

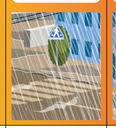
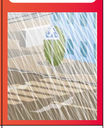


外水氾濫（洪水）

外水氾濫（洪水）とは、大雨や台風などで河川の水位が上昇し、堤防の高さを超えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊したりすることで、河川の水が直接市街地や田畑に流れ込むことをいいます。



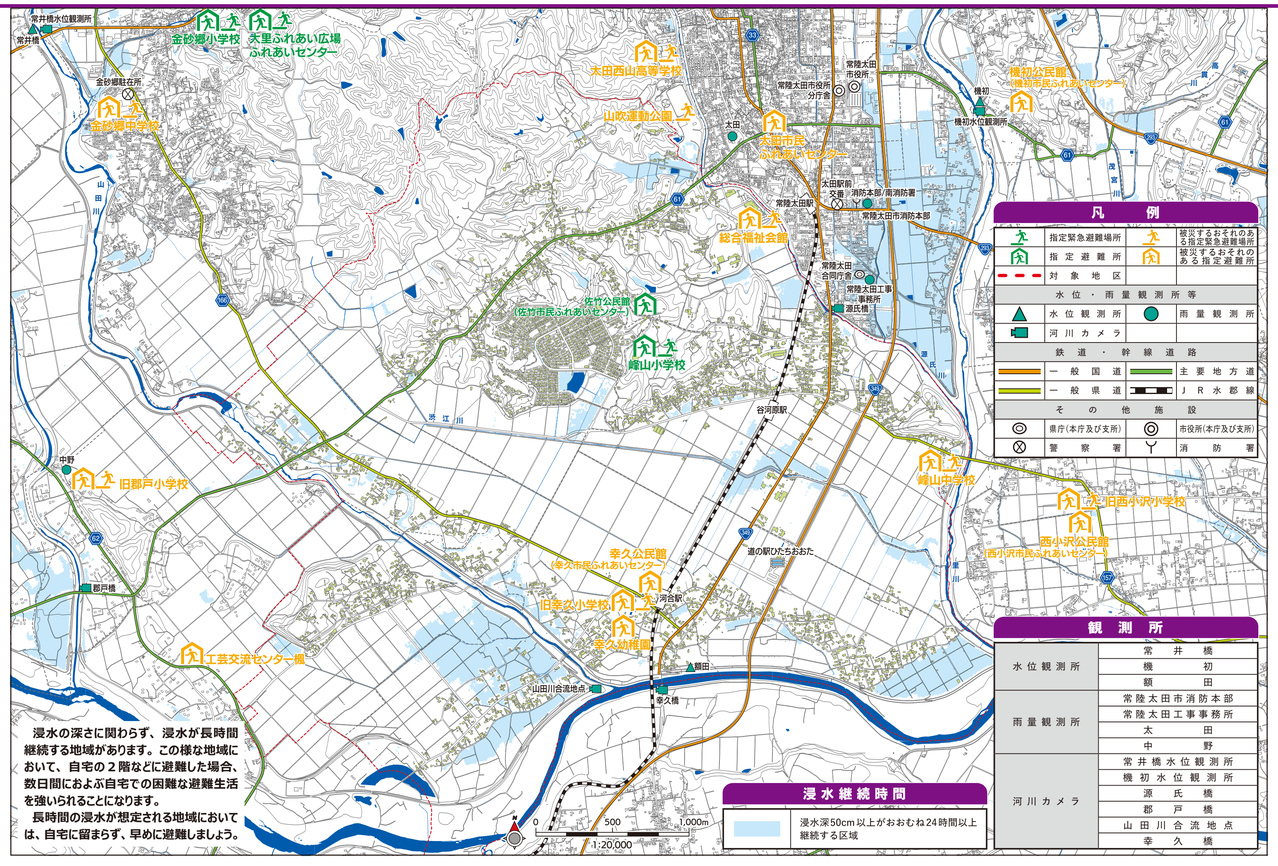
雨の強さ・降り方

雨の強さ（1時間雨量）	やや強い雨（10～20mm）	強い雨（20～30mm）	激しい雨（30～50mm）	非常に激しい雨（50～80mm）	猛烈な雨（80mm～）
					
人への影響	ザーザーと降る。地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のようにゴーゴーと降り続き、傘は全く役に立たなくなる。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。
屋外の様子	地面一面に水たまりができる。		道路が川のようになる。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。（ハイドロプレーニング現象）	車の運転は危険。	

「雨と風（雨と風の階級表）」（気象庁）を加工して作成

浸水が継続する時間

浸水が長時間継続する地域にお住まいの方は自宅に留まらず、早めの立ち退き避難を！



浸水の深さに関わらず、浸水が長時間継続する地域があります。この様な地域において、自宅の２階などに避難した場合、数日間におよぶ自宅での困難な避難生活を強いられることになります。
長時間の浸水が想定される地域においては、自宅に留まらず、早めに避難しましょう。